

## 男木島：迷宮のような街並みと人目を引くアート

瀬戸内海にある山がちな地形の男木島は、高松港から北方 8 キロほどのところにあり、高松港からフェリーで約 40 分で行くことができます。訪れた人は島の南西端近くの男木島港に近づくと、石垣で補強された急勾配の段々になった傾斜地の中腹に、島民の住居が何層にも重なって建てられている様子に気付くでしょう。家はさまざまな方向を向いており、かなり近接して建っていることも頻繁にあるため、家々の間にある傾斜した階段が点在する道は、迷路のように見えます。狭いとはいえこうした道からは、下に海を見渡せる印象的な景色が望めることもあります。しかし丘陵地帯は徒歩でしか探索できず、残念ながら徒歩の移動に問題のある方々には適していないことを観光の際にはご承知おきください。

人口およそ 150 人の男木島は、瀬戸内国際芸術祭の会場の一つに選ばれた 2010 年までは何かの目的地となることはほとんどありませんでした。島は祭典の時期が一番忙しいのですが、他の時期にも見どころはたくさんあります。島を訪れる人が到着して最初に出合う常設の芸術作品は「男木島の魂」です。これは港の風景の中にそびえ立つ、独特の形をした白い屋根の、コンクリートとガラスから成る建造物です。スペインの現代アーティスト、ジャウメ・プレンサが 2010 年瀬戸内国際芸術祭のために建てたこの作品は貝殻の形に着想を得ており、今では訪れた人が足を休めたり、フェリーのチケットを購入できる場所になっています。

活動的な人であれば、港から島の北部まで徒歩 30 分で行けます。ここで最も人気のある見所は 1895 年に建てられた西洋スタイルの灯台、男木島灯台です。無塗装の御影石のこの灯台の隣には、小さな資料館があります。